

## 青谷上寺地遺跡の変遷(四)

弥生時代後期初頭〜後期後葉  
(約2000〜1800年前)

中期後葉に大きく変貌した遺跡の盛期は、この時期におよんでいます。

中期後葉の溝が埋まると、遺跡の中心区域を外側に拡大して溝を築きます。この溝は、最大幅10メートルを測り、多数の矢板が打ち込まれていま

# 弥生から時を越えて

## 青谷上寺地遺跡

す。矢板列は、中心部側に打ち込まれ、数回作り直されていることがわかります。この溝は、遺跡中心部の内側を強化し、外と区画するという意味合いを持っているように思われます。

溝の外側の低湿地部の土壌中には、イネの花粉やプランクトンパール(イネ科に特有のガラス質)が多量に検出され

ていることから、水田域も拡大し、集約的な稲作が行われたと思われる。

遺物の量も引き続き多量で、木製容器には日用品とは思えないほどの精巧な製品が認められます。注目されるのは鉄器の著しい増加で、朝鮮半島製の鉄斧てつおのも見つかっています。こうした鉄製品によって、さまざまな木製品や骨角製品が加工されたのでしよう。

古代中国の銭貨である貨泉かせんが、製造された頃と同時期の土器とともに出土していることは、その当時に大陸と交易が行われたことをうかがわせることができます。



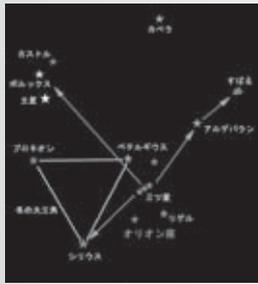
▲矢板を打ち込んだ大規模な溝



春もすぐそこです。

冬の星座たちも見納め、ぜひご覧ください！

「三ツ星」で有名な「オリオン座」が、冬の星座や星をいろいろと教えてください。まずは三ツ星の傾きにそって右上(北西)のほうに進んでみましょう。「アルデバラン」という明るい星が見つかります。さらに進むと、有名な星の集まり「すばる」が見つかります。目で見ると6〜7個くらいの星が見えます。



オリオン座に戻り、今度は三ツ星の傾きにそって左下(南東)のほうに進んでみましょう。明るく輝く「シリウス」が見つかります。三ツ星の左上の星「ベテルギウス」とつないでちょうど三角形を作る左(東)の方向に、明るい星「プロキオン」も見つかります。これが「冬の大三角」です。

またオリオン座に戻り、今度は三ツ星の左上(北東)のほうに進んでみましょう。頭の上高いところに、明るめの星が3つ並んでいます。これらは「ふたご座」の2つの星「カストル」と「ポルクス」、そして「土星」です。土星はこの冬、ふたご座付近を移動していて、ちょうど見ごろとなっています。目で見ると普通の星にしか見えませんが、望遠鏡で拡大してみると輪のある姿が楽しめます。

こんなふうに、オリオン座が見つければ冬の星座や星がいろいろと探せます。ぜひ、本当の星空で確かめてみてください。

佐治天文台長 香西洋樹こうさいのりきの「星物語」

vol.5 太陽と月

3月20日は、お彼岸の中日(ちゅうにち)。春分の日です。太陽が真東から出て真西に沈む日として知られていますね。日本は赤道からおよそ3500キロメートル北にあるために春、夏、秋、冬が繰り返します。赤道より南の国では、季節がちょうど反対。ふしぎな感じがします。しかし、赤道の場所では春と秋には、太陽は真東から出て、頭の真上を通り、真西に沈みます。お彼岸の頃、赤道地方にいたことがありましたが、太陽が頭の真上に来ると、方角が分からなくなって困りました。日本などでは、太陽は東から出て、時間と共に右へ右へと動き、やがて西に沈みますが赤道地方では太陽は時間と共に上に上にと進み、頭の真上を通り過ぎると下へ下へと進んで行くのです。赤道から南の地方では日本などとは反対に、時間とともに左へ左へと動いて行くのです。月も同じような動きをします。やはり、地球は球形なのでした。そして、太陽も月も、もっとも身近な星なのです。

StarWorld  
見上げてごらん